

(19) 日本国特許庁(JP)

## 再公表特許(A1)

(11) 国際公開番号

W02013/146014

発行日 平成27年12月10日 (2015.12.10)

(43) 国際公開日 平成25年10月3日 (2013.10.3)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
<b>A 6 1 B</b> 1/06 (2006.01)	A 6 1 B 1/06 B	2 H 0 4 O
<b>A 6 1 B</b> 1/04 (2006.01)	A 6 1 B 1/04 3 7 O	4 C 1 6 1
<b>A 6 1 B</b> 1/00 (2006.01)	A 6 1 B 1/00 3 O O D	5 C O 5 4
<b>G O 2 B</b> 23/24 (2006.01)	G O 2 B 23/24 B	
<b>G O 2 B</b> 23/26 (2006.01)	G O 2 B 23/26 B	

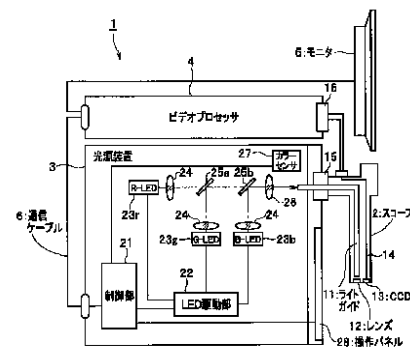
審査請求 有 予備審査請求 未請求 (全 26 頁) 最終頁に続く

出願番号	特願2013-535618 (P2013-535618)	(71) 出願人	304050923 オリンパスメディカルシステムズ株式会社 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号
(21) 国際出願番号	PCT/JP2013/054954	(74) 代理人	100076233 弁理士 伊藤 進
(22) 国際出願日	平成25年2月26日 (2013.2.26)	(74) 代理人	100101661 弁理士 長谷川 靖
(11) 特許番号	特許第5467181号 (P5467181)	(74) 代理人	100135932 弁理士 篠浦 治
(45) 特許公報発行日	平成26年4月9日 (2014.4.9)	(72) 発明者	正木 隆浩 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オ リンパスメディカルシステムズ株式会社内
(31) 優先権主張番号	特願2012-76989 (P2012-76989)	(72) 発明者	矢部 雄亮 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オ リンパスメディカルシステムズ株式会社内
(32) 優先日	平成24年3月29日 (2012.3.29)		最終頁に続く
(33) 優先権主張国	日本国 (JP)		

(54) 【発明の名称】 内視鏡システム

## (57) 【要約】

複数色のLED (23r, 23g, 23b) と、LEDの故障を検知するカラーセンサ (27) と、を有する光源装置 (3) と、光源装置 (3) により発生された照明光を被検体へ照射して被検体の光学像を取り込むスコープ (2) と、被検体の光学像を撮像するCCD (13) と、CCD (13) により撮像された画像を処理するビデオプロセッサ (4) と、ビデオプロセッサ (4) により処理された画像を表示するモニタ (5) と、を備え、ビデオプロセッサ (4) は、カラーセンサ (27) により何れかのLEDの故障が検知されたときは、画像処理を、LEDの故障が検知されていないときとは異なる、故障が検知されていないLEDのみの発光に対応した画像処理に切り替える内視鏡システム。



- 2 Scope
- 3 Light source device
- 4 Video processor
- 5 Monitor
- 6 Communication cable
- 11 Light guide
- 12 Lens
- 21 Control unit
- 22 LED drive unit
- 27 Color sensor
- 28 Console panel

**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

複数色の発光素子と、前記発光素子の故障を検知する故障検知部と、を有する光源装置と、

前記光源装置により発生された照明光を被検体へ照射して該被検体の光学像を取り込む内視鏡と、

前記被検体の光学像を撮像する撮像素子と、

前記撮像素子により撮像された画像を処理するビデオプロセッサと、

前記ビデオプロセッサにより処理された画像を表示するモニタと、

を具備し、

10

前記ビデオプロセッサは、前記故障検知部により何れかの色の前記発光素子の故障が検知されたときは、画像処理を、該発光素子の故障が検知されていないときとは異なる、故障が検知されていない色の発光素子のみの発光に対応した画像処理に切り替えることを特徴とする内視鏡システム。

**【請求項 2】**

前記複数色の発光素子は、白色光を構成する 3 色の光を発光する発光素子を含み、

前記ビデオプロセッサは、前記故障検知部により前記発光素子の故障が検知されていないときにはカラー処理を撮像画像に行ってカラー表示画像を生成し、該発光素子の故障が検知されたときにはモノクロ処理を撮像画像に行ってモノクロ表示画像を生成することを特徴とする請求項 1 に記載の内視鏡システム。

20

**【請求項 3】**

前記白色光を構成する 3 色の光を発光する発光素子は、赤色（R）発光素子、緑色（G）発光素子、青色（B）発光素子であり、

前記故障検知部により故障が検知された発光素子が緑色発光素子のみであるときには、前記光源装置が緑色発光素子以外の発光素子を発光させるとともに、前記ビデオプロセッサが前記光源装置の発光態様に応じたモノクロ処理を撮像画像に行ってモノクロ表示画像を生成することを特徴とする請求項 2 に記載の内視鏡システム。

**【請求項 4】**

前記複数色の発光素子は、さらに、狭帯域光を発光する狭帯域用発光素子を含み、

前記故障検知部により故障が検知された発光素子が前記狭帯域用発光素子のみであるときには、照明モードを RGB 白色照明モードに設定して、前記光源装置が RGB 白色照明を行うとともに、前記ビデオプロセッサが RGB 白色照明に応じたカラー処理を撮像画像に行ってカラー表示画像を生成することを特徴とする請求項 3 に記載の内視鏡システム。

30

**【請求項 5】**

前記狭帯域用発光素子は、狭帯域のバイオレット（V）発光素子を含み、

前記故障検知部により故障が検知された発光素子が前記青色発光素子のみであるときには、照明モードを RGB 準白色照明モードに設定して、前記光源装置が前記青色発光素子を発光させる期間に前記バイオレット発光素子のみを発光させることにより RGB 準白色照明を行うとともに、前記ビデオプロセッサが RGB 準白色照明に応じたカラー処理を撮像画像に行ってカラー表示画像を生成することを特徴とする請求項 4 に記載の内視鏡システム。

40

**【請求項 6】**

前記緑色発光素子は前記狭帯域用発光素子を兼ねており、

前記故障検知部により故障が検知された発光素子が前記赤色発光素子のみであるときには、照明モードを狭帯域照明モードに設定して、前記光源装置が前記バイオレット発光素子および前記緑色発光素子を発光させることにより狭帯域照明を行うとともに、前記ビデオプロセッサが狭帯域照明用の画像処理を撮像画像に行って狭帯域画像を生成することを特徴とする請求項 5 に記載の内視鏡システム。

**【請求項 7】**

前記光源装置は、前記発光素子の故障が検知されていないときには前記白色光を構成す

50

る３色の光を発光する発光素子により面順次照明を行うものであり、何れかの色の該発光素子の故障が検知されたときには、前記撮像素子の全ての露光期間に、故障が検知されていない発光素子の何れか１色以上を発光させ、

前記ビデオプロセッサは、前記故障検知部により前記発光素子の故障が検知されたときには、前記光源装置の発光態様に応じたモノクロ処理を撮像画像に行ってモノクロ表示画像を生成することを特徴とする請求項２に記載の内視鏡システム。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、内視鏡から被検体へ照射する照明光を、光源装置内の複数色の発光素子から発光する内視鏡システムに関する。

【背景技術】

【０００２】

内視鏡から被検体へ照射する照明光の光源装置として、ＬＥＤ等の発光素子を利用するものが提案されている。

【０００３】

図１０は光源としてＬＥＤを利用した従来の内視鏡システムの構成を示す図である。

【０００４】

内視鏡システム１０１は、スコープ２と、光源装置３と、ビデオプロセッサ４と、モニタ５と、通信ケーブル６とを備えている。

【０００５】

光源装置３は、光源として赤色ＬＥＤ（Ｒ－ＬＥＤ）２３ｒ、緑色ＬＥＤ（Ｇ－ＬＥＤ）２３ｇ、および青色ＬＥＤ（Ｂ－ＬＥＤ）２３ｂの発光素子を利用しており、これらのＬＥＤに電力を供給して駆動するためのＬＥＤ駆動部２２と、通信ケーブル６を介してビデオプロセッサ４から入力される被写体の明るさ情報に基づきＬＥＤ駆動部２２を制御して各色ＬＥＤからの出射光の強度を調節する制御部２１と、を備えている。

【０００６】

光源装置３のＬＥＤ２３ｒ、２３ｇ、２３ｂから発光された光は、光学系を介してスコープ２内のライトガイド１１の基端に照射される。照明光はライトガイド１１内を伝達され、スコープ２の挿入部先端に配設された照明用のレンズ１２を介して被検体に照射される。

【０００７】

照明された被検体の光学像は、スコープ２の挿入部先端部に配設された撮像素子であるＣＣＤ１３により電気信号に変換されて、ビデオプロセッサ４へ送信される。

【０００８】

ビデオプロセッサ４は、ＣＣＤ１３から受信した電気信号に基づきモニタ５に表示するための画像信号を生成するとともに、明るさ情報を生成して通信ケーブル６を介して光源装置３の制御部２１へ送信する。

【０００９】

光源装置３の赤色ＬＥＤ２３ｒから発光される赤色光と、緑色ＬＥＤ２３ｇから発光される緑色光と、青色ＬＥＤ２３ｂから発光される青色光とを、例えば光源装置３内の光学系により合成すると、本発明に係る図２に示すように、白色照明光ＷＬを生成することができる。

【００１０】

ただし、光源装置３内の光学系により各色光を合成するのに代えて、本発明に係る図３に示すように、１フレーム内で時間をずらして各色ＬＥＤを順番に点灯させる面順次照明を行う場合でも、ビデオプロセッサにより合成されてモニタに表示される画像は、実効的に白色照明光により照明された被写体像となる。

【００１１】

このような構成の内視鏡システム１０１において、光源装置３内の何れかのＬＥＤが故

10

20

30

40

50

障することが考えられる。

【 0 0 1 2 】

光源の何れかが故障したときに対処する技術として、例えば特開 2 0 0 2 - 4 5 3 3 0 号公報の段落 [ 0 0 4 4 ] には照明ユニット 1 1 0 が通常画像用白色光 L w、自家蛍光画像用励起光 L r、および参照画像用参照光 L s をそれぞれ射出する 3 つの光源を備えることが、段落 [ 0 0 1 3 ] には、励起光射出手段または参照光射出手段が異常動作した場合には、照明光射出手段から照明光を射出し、撮像手段を通常像を撮像する状態に切り換え、表示手段を通常画像を表示する状態に切り換えることが記載されている。

【 0 0 1 3 】

しかしながら、特開 2 0 0 2 - 4 5 3 3 0 号公報に記載の技術は、励起光等の特殊照明が故障したときに通常照明に切り替える技術であり、通常照明を構成する発光素子の何れかが故障して色バランスが崩れたときの対処については考慮されていない。

10

【 0 0 1 4 】

しかし、例えば本発明に係る図 4 に示すように緑色 L E D 2 3 g が故障した場合は、G 画像が得られず、R 画像および B 画像のみが得られることとなるために、ビデオプロセッサ 4 により合成されてモニタ 5 に表示される画像は色バランスの崩れた画像となってしまう、モニタ 5 を観察するユーザにストレスを与えることになってしまう。そして、光源装置に故障が生じたときには、安全性を確保するために体腔内からスコープを抜去することが必要であるが、この抜去操作を行う際にはユーザに不快感を与えない画像を表示することが望ましい。

20

【 0 0 1 5 】

本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、複数色の発光素子の内の何れかが故障した場合であっても、ユーザに不快感を与えることのない画像を表示することができる内視鏡システムを提供することを目的としている。

【発明の開示】

【課題を解決するための手段】

【 0 0 1 6 】

上記の目的を達成するために、本発明のある態様による内視鏡システムは、複数色の発光素子と、前記発光素子の故障を検知する故障検知部と、を有する光源装置と、前記光源装置により発生された照明光を被検体へ照射して該被検体の光学像を取り込む内視鏡と、前記被検体の光学像を撮像する撮像素子と、前記撮像素子により撮像された画像を処理するビデオプロセッサと、前記ビデオプロセッサにより処理された画像を表示するモニタと、を具備し、前記ビデオプロセッサは、前記故障検知部により何れかの色の前記発光素子の故障が検知されたときは、画像処理を、該発光素子の故障が検知されていないときとは異なる、故障が検知されていない色の発光素子のみの発光に対応した画像処理に切り替える。

30

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 7 】

【図 1】本発明の実施形態 1 の内視鏡システムの構成を示す図。

【図 2】上記実施形態 1 において、光源装置の各色 L E D から発光される光のスペクトルの様子を示す図。

40

【図 3】上記実施形態 1 において、面順次照明を行うときの各色 L E D の発光タイミングを示すタイミングチャート。

【図 4】上記実施形態 1 において、緑色 L E D が故障したときの面順次照明動作の様子を示すタイミングチャート。

【図 5】本発明の実施形態 2 において、緑色 L E D が故障したときの面順次照明動作の第 1 の例を示すタイミングチャート。

【図 6】上記実施形態 2 において、緑色 L E D が故障したときの面順次照明動作の第 2 の例を示すタイミングチャート。

【図 7】上記実施形態 2 において、緑色 L E D が故障したときの面順次照明動作の第 3 の

50

例を示すタイミングチャート。

【図 8】本発明の実施形態 3 の内視鏡システムの構成を示す図。

【図 9】上記実施形態 3 において、故障した L E D の色に応じて照明モードの動作を変更する処理を示すフローチャート。

【図 10】光源として L E D を利用した従来の内視鏡システムの構成を示す図。

【発明を実施するための最良の形態】

【0018】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態を説明する。

【0019】

[ 実施形態 1 ]

図 1 から図 4 は本発明の実施形態 1 を示したものであり、図 1 は内視鏡システムの構成を示す図、図 2 は光源装置の各色 L E D から発光される光のスペクトルの様子を示す図である。

【0020】

内視鏡システム 1 は、スコープ 2 と、光源装置 3 と、ビデオプロセッサ 4 と、モニタ 5 と、通信ケーブル 6 とを備えている。

【0021】

光源装置 3 は、光源として複数色の発光素子を用いたものとなっていて、複数色の発光素子は、白色光を構成する 3 色の光を発光するための発光素子、具体的には、赤色 ( R ) 発光素子である赤色 L E D ( R - L E D ) 2 3 r と、緑色 ( G ) 発光素子である緑色 L E D ( G - L E D ) 2 3 g と、青色 ( B ) 発光素子である青色 L E D ( B - L E D ) 2 3 b と、を備えている。各発光素子の発光スペクトルはそれぞれ異なり、図 2 に示すように、赤色 L E D 2 3 r から発光される光が赤色光 R の帯域のスペクトル、緑色 L E D 2 3 g から発光される光が緑色光 G の帯域のスペクトル、青色 L E D 2 3 b から発光される光が青色光 B の帯域のスペクトルである。

【0022】

光源装置 3 に設けられた L E D 駆動部 2 2 は、これらの赤色 L E D 2 3 r と緑色 L E D 2 3 g と青色 L E D 2 3 b とに電力をそれぞれ供給して駆動するものである。

【0023】

光源装置 3 に設けられた制御部 2 1 は、赤色 L E D 2 3 r 、緑色 L E D 2 3 g 、青色 L E D 2 3 b それぞれの出射光の強度を調節するように、L E D 駆動部 2 2 を制御するものである。この制御部 2 1 の制御は、通信ケーブル 6 を介してビデオプロセッサ 4 と通信を行って取得した被写体の明るさ情報に基づき行われる。

【0024】

光源装置 3 には、照明光を伝送する光学系として、3 つのコリメータレンズ 2 4 と、2 つのダイクロイックフィルタ 2 5 a , 2 5 b と、1 つの集光レンズ 2 6 とが設けられている。

【0025】

3 つのコリメータレンズ 2 4 は、赤色 L E D 2 3 r 、緑色 L E D 2 3 g 、青色 L E D 2 3 b それぞれの出射光の光路上に配設されていて、入射された光を平行光として射出するものである。

【0026】

第 1 のダイクロイックフィルタ 2 5 a は、赤色 L E D 2 3 r からの赤色光 R を透過し、緑色 L E D 2 3 g からの緑色光 G を反射するものである。

【0027】

第 2 のダイクロイックフィルタ 2 5 b は、赤色 L E D 2 3 r からの赤色光 R および緑色 L E D 2 3 g からの緑色光 G を透過し、青色 L E D 2 3 b からの青色光 B を反射するものである。

【0028】

集光レンズ 2 6 は、第 2 のダイクロイックフィルタ 2 5 b からの平行光束を、スコープ

10

20

30

40

50

2のライトガイド11の基端の入射端面に集光するものである。

【0029】

そして、もし3つの発光素子、つまり赤色LED23rと緑色LED23gと青色LED23bとを同時に発光させたときには、それぞれの発光強度が所定範囲内にある場合には、集光レンズ26から射出される光は、図2に示すように、RGBの3色が揃った白色照明光WLとなる。

【0030】

さらに、光源装置3には、発光素子の故障を検知する故障検知部として、カラーセンサ27が設けられている。このカラーセンサ27は、例えば、集光レンズ26から射出される光束の内の、ライトガイド11の入射端面には至らない漏れ光を検知する位置（例えば、スコープ2のライトガイドコネクタ15が接続されるスコープソケットの近傍）に配設されている。そして、カラーセンサ27は、カラーセンシングを行うことにより、赤色光R、緑色光G、および青色光Bの各光強度を検出し、検出結果を制御部21へ出力する。

【0031】

制御部21は、LED駆動部22により規格範囲内の駆動を行っても、3つのLEDの内の何れかの発光強度を所定範囲内にすることができない場合には、そのLEDが故障したと判断する。すなわち、発光素子の故障とは、発光できなくなったときを含むだけでなく、所定レベルの発光強度を維持できなくなったときなど、所定の光を出射することができないときを含んでいる。

【0032】

また、光源装置3に設けられた操作パネル28は、光源装置3に対する操作をユーザが行うためのものであり、光源装置3の電源オン/オフ操作や、照明モードの設定操作等を行うことができるようになっている。操作パネル28から入力された照明モードは、制御部21および通信ケーブル6を介してビデオプロセッサ4へ送信され、照明モードに対応する観察モードの画像処理が行われるようになっている。

【0033】

このような光源装置3から照明光の供給を受ける内視鏡であるスコープ2は、ライトガイド11と、レンズ12と、CCD13と、信号線14と、ライトガイドコネクタ15と、ビデオコネクタ16と、を備えている。

【0034】

ライトガイド11は、ライトガイドコネクタ15から基端が延出しており、ライトガイドコネクタ15を光源装置3に接続したときに、ライトガイド11の基端の入射端面に上述した集光レンズ26からの光が集光される。

【0035】

ライトガイド11はスコープ2の挿入部内を先端部まで挿通されており、先端の射出面から照明光を射出する。スコープ2の先端におけるこの照明光の光路上には、照明用のレンズ12が配設されている。こうして、ライトガイド11内を伝達された光源装置3からの照明光は、レンズ12を介して挿入部の先端から被検体に照射される。

【0036】

照明光を照射された被検体の光学像は、スコープ2の挿入部先端に配設された図示しない対物レンズを介して取り込まれ、撮像素子であるCCD13上に結像する。このCCD13は、カラーフィルタアレイ等が配設されたカラー撮像素子であっても構わないが、本実施形態においては、面順次照明光を受光するモノクロ撮像素子であるものとする（ただし、面順次照明に限るものではない）。そして、CCD13は、被検体の光学像を電気信号に変換する撮像を行い、信号線14を介して、ビデオコネクタ16が接続されたビデオプロセッサ4へ電気信号を送信する。

【0037】

ビデオプロセッサ4は、CCD13から受信した各色画像を同時化してカラーの画像信号を生成し、カラーバランス調整やガンマ変換、色変換等の画像処理を行った後に、モニタ5に表示するための信号形式に変換してモニタ5へ出力する。これにより、モニタ5に

10

20

30

40

50

は被写体のカラー画像が表示される。

【 0 0 3 8 】

また、ビデオプロセッサ 4 は、受信した各色画像から例えば輝度信号を抽出して、抽出した輝度信号に基づき明るさ情報を生成する。こうしてビデオプロセッサ 4 により生成された明るさ情報は、ビデオプロセッサ 4 と光源装置 3 とを接続する通信ケーブル 6 を介して、光源装置 3 の制御部 2 1 へ送信される。

【 0 0 3 9 】

制御部 2 1 は、受信した明るさ情報に基づき、LED 駆動部 2 2 を介して上述したように各色 LED の発光強度の制御を行う。また、制御部 2 1 は、カラーセンサ 2 7 の出力値に基づき、LED の故障を検知するだけでなく、カラーバランス調整、つまり赤色 LED 2 3 r と緑色 LED 2 3 g と青色 LED 2 3 b との発光強度のバランス調整も行うようになっている。

10

【 0 0 4 0 】

次に、図 3 は面順次照明を行うときの各色 LED の発光タイミングを示すタイミングチャートである。

【 0 0 4 1 】

CCD 1 3 は、光を受光して電荷を蓄積する露光期間の動作と、蓄積した電荷を画素毎に順次読み出す読出期間の動作とを交互に行うようになっている。

【 0 0 4 2 】

そして、面順次照明の場合には、露光期間に何れか 1 色の LED のみを発光させて露光を行い、読出期間に全ての LED を消灯させて露光画像の読み出しを行うようになっている。すなわち、ある露光期間に例えば赤色 LED 2 3 r のみを発光させて露光を行い、その後の読出期間において赤色光 R を露光して得られた R 画像の読み出しを行い、次の露光期間に例えば緑色 LED 2 3 g のみを発光させて露光を行い、その後の読出期間において緑色光 G を露光して得られた G 画像の読み出しを行い、さらに次の露光期間に例えば青色 LED 2 3 b のみを発光させて露光を行い、その後の読出期間において青色光 B を露光して得られた B 画像の読み出しを行う、といった 1 フレームのサイクルを繰り返して行うようになっている。

20

【 0 0 4 3 】

続いて、図 4 は緑色 LED 2 3 g が故障したときの面順次照明動作の様子を示すタイミングチャートである。

30

【 0 0 4 4 】

まず、LED 駆動部 2 2 が故障した等の場合を除いては、複数色の LED が同時に故障することは希であり、発生確率は十分に小さいと見て良い。そこで、以下においては、複数色の LED の内の、何れか 1 色の LED が故障した場合について考える。

【 0 0 4 5 】

図 4 に示すように、緑色 LED 2 3 g に、例えば発光しないという故障が生じた場合でも、緑色 LED 2 3 g 以外の LED は通常通りに発光する。ただし、このときには、緑色光 G による照明が行われないために G 画像が得られず、もしビデオプロセッサ 4 が正常照明時と同様の画像処理を行うと、RGB カラー画像から G 成分が欠落した色バランスが崩れた画像がモニタ 5 に表示されることになってしまう。

40

【 0 0 4 6 】

そこで、本実施形態の内視鏡システム 1 においては、故障検知部であるカラーセンサ 2 7 の出力に基づき何れかの LED が故障したことを制御部 2 1 が検知した場合には、次のような処理を行う。

【 0 0 4 7 】

まず、制御部 2 1 は、何れかの LED が故障したことを検知すると、LED 駆動部 2 2 へ指令を与えて、故障した LED への電力投入を停止させる。従って、図 4 に示す例においては、緑色 LED 2 3 g への電力投入が停止されることになる。LED はオープンモードで故障する場合だけでなく、ショートモードで故障することもあり、後者の場合には無

50

駄な電流が流れることになる。従って、故障したＬＥＤへの電力投入を停止することで、こうした無駄な電力消費を抑制することができる。

【００４８】

さらに、制御部２１は、どの色のＬＥＤが故障状態となったのかの故障ＬＥＤ情報（欠落色情報）を、通信ケーブル６を介してビデオプロセッサ４へ通知する。

【００４９】

ビデオプロセッサ４は、故障ＬＥＤ情報（欠落色情報）を受信すると、まず、光源装置３にエラーが生じたことを示す警告表示を生成してモニタ５に出力する。これにより、モニタ５には警告表示がユーザにより視認可能となるように表示される。なお、このときには、どの色のＬＥＤが故障したかの情報や、ＬＥＤの交換を促す情報等を合わせて表示するようにしても構わない。

10

【００５０】

さらに、ビデオプロセッサ４は、ＣＣＤ１３から入力される画像信号の処理を、ＬＥＤの故障が検知されていないときとは異なる、故障が検知されていない色のＬＥＤのみの発光に対応した画像処理に切り替えるようになっている。

【００５１】

具体的に、ビデオプロセッサ４は、全てのＬＥＤが正常に動作していてＬＥＤの故障が検知されていないときには、Ｒ画像、Ｇ画像、およびＢ画像の入力を用いてカラー表示画像を生成するカラーマトリクス（例えば、入力３成分、出力３成分の３行３列のマトリクス）により画像処理（カラー処理）を行っている。

20

【００５２】

これに対して、制御部２１から故障ＬＥＤ情報（欠落色情報）を受信した場合には、ビデオプロセッサ４は、故障したＬＥＤに応じた処理マトリクスを用いて画像処理を行うようになっている。

【００５３】

例えば、上述したように緑色ＬＥＤ２３ｇが故障した旨の故障ＬＥＤ情報（欠落色情報）を受信した場合には、ビデオプロセッサ４は、Ｒ画像およびＢ画像の入力を用いてモノクロ表示画像を生成するモノクロマトリクス（例えば、入力２成分、出力１成分の１行２列のマトリクス）により画像処理（モノクロ処理）を行うようになっている。

30

【００５４】

同様に本実施形態においては、赤色ＬＥＤ２３ｒが故障した場合にはＧ画像およびＢ画像を用いてモノクロ表示画像を生成するモノクロマトリクス、青色ＬＥＤ２３ｂが故障した場合にはＲ画像およびＧ画像を用いてモノクロ表示画像を生成するモノクロマトリクスを用いて、ビデオプロセッサ４は画像処理（モノクロ処理）を行うようになっている。

【００５５】

こうして、本実施形態のモノクロ処理は、ビデオプロセッサ４が光源装置３の発光態様に応じたモノクロ処理を撮像画像に行って、モノクロ表示画像を生成する処理となっている。

【００５６】

なお、上述では１つのカラーセンサ２７を、集光レンズ２６から射出される光束の漏れ光を検知する位置に配設したが、これに限らず、各ＬＥＤ２３ｒ、２３ｇ、２３ｂそれぞれの近傍にモノクロの照度センサを配置して故障を検知するようにしても構わない。

40

【００５７】

また、上述では発光素子の故障を検知する故障検知部としてカラーセンサ２７を用いたが、これに限るものではなく、故障検知部として例えば各ＬＥＤ２３ｒ、２３ｇ、２３ｂの順方向電圧を検知する電圧検知部を設けて、各ＬＥＤ２３ｒ、２３ｇ、２３ｂのショート、オープン、順方向電圧の異常増加等を検知し、検知結果に基づき故障を検知する構成としても良い。

【００５８】

さらに、上述では撮像素子であるＣＣＤ１３をスコープ２の挿入部先端部に配設したが

50



、この構成に限るものではなく、リレー光学系等を介して光学像を伝送し、スコープ２の手元側、あるいはビデオプロセッサ内で撮像を行う構成であっても構わない。従って、撮像素子は内視鏡に含まれるとは限らない。

【００５９】

このような実施形態１によれば、複数色の発光素子の内の何れかが故障した場合でも、モニタ５に色バランスの崩れた画像が表示されることはなく、モニタ５を観察するユーザに不快感やストレスを与えることはない。

【００６０】

そして、色バランスの崩れたカラー表示画像に代えてモノクロ表示画像が自動的に表示されるために、ユーザは、体腔内からスコープを抜去する処理を安全に行うことができる。

10

【００６１】

さらに、ＬＥＤ故障が発生したときには、カラー表示画像からモノクロ表示画像に切り替える際にモニタ５に警告表示が行われるために、ユーザは、何故モノクロ表示画像に切り替わったのかの理由を認識することができる。

【００６２】

そして、ビデオプロセッサ４は、どの色のＬＥＤが故障したのかに応じたモノクロ処理を行っているために、使用可能な色画像に応じた適切なモノクロ表示画像を生成することができる。

【００６３】

20

[ 実施形態２ ]

図５から図７は本発明の実施形態２を示したものであり、図５は緑色ＬＥＤ２３ｇが故障したときの面順次照明動作の第１の例を示すタイミングチャート、図６は緑色ＬＥＤ２３ｇが故障したときの面順次照明動作の第２の例を示すタイミングチャート、図７は緑色ＬＥＤ２３ｇが故障したときの面順次照明動作の第３の例を示すタイミングチャートである。

【００６４】

この実施形態２において、上述の実施形態１と同様である部分については同一の符号を付して説明を省略し、主として異なる点についてのみ説明する。

【００６５】

30

上述した実施形態１では、面順次照明動作における、故障したＬＥＤによる照明が行われるはずであった露光期間には、該当するＬＥＤが故障しているために照明が行われなかった（図４等参照）。

【００６６】

これに対して、この実施形態２は、何れかの色のＬＥＤの故障が検知されたときには、ＣＣＤ１３の全ての露光期間に、故障が検知されていないＬＥＤの何れか１色以上を発光させるものとなっている。

【００６７】

図４に示したように緑色ＬＥＤ２３ｇが故障したときの他の色のＬＥＤ発光例を、図５～図７を参照して説明する。

40

【００６８】

図５に示す第１の例においては、正常な面順次照明時に緑色ＬＥＤ２３ｇを発光させる期間に、緑色ＬＥＤ２３ｇに代えて赤色ＬＥＤ２３ｒを発光させるようになっている。また、この第１の例においては、故障が発生していない正常時に赤色ＬＥＤ２３ｒおよび青色ＬＥＤ２３ｂを発光させる面順次の各期間は、緑色ＬＥＤ２３ｇが故障しても変更がない。

【００６９】

このときには、ビデオプロセッサ４は、Ｒ画像、Ｒ画像、Ｂ画像の入力を用いてモノクロ表示画像を生成するモノクロマトリクスにより、画像処理（モノクロ処理）を行うようになっている。ここで用いるモノクロマトリクスは、入力３成分（Ｒ成分、Ｒ成分、Ｂ成

50

分)、出力1成分(モノクロ成分(輝度成分))の1行3列のマトリクスであっても良いし、1フレームにおける2つのR画像を平均化した後に、入力2成分(平均R成分、B成分)、出力1成分(モノクロ成分(輝度成分))の1行2列のマトリクスを用いるようにしても構わない。

#### 【0070】

この図5に示す処理を行う場合には、緑色LED23gが故障した異常時であっても、正常な面順次照明時における赤色LED23rおよび青色LED23bの発光手順と、正常な面順次照明時におけるR画像およびB画像の画像処理手順とを変更する必要がない利点がある。

#### 【0071】

また、図6に示す第2の例は、何れかのLEDが故障したときには、正常な面順次照明動作における発光順序を引き続き基本として用いるのに代えて、発光可能な色のLEDをCCD13の露光期間に交互に発光させるものとなっている。すなわち、緑色LED23gが故障した例においては、赤色LED23rと青色LED23bとをCCD13の露光期間に交互に発光させる。

#### 【0072】

このときには、あるフレームにおいて得られる画像はR画像、B画像、R画像であるが、次のフレームにおいて得られる画像はB画像、R画像、B画像となる。従って、ビデオプロセッサ4は、1フレーム毎に使用するモノクロマトリクスを変更して、前者の場合には入力3成分(R成分、B成分、R成分)、出力1成分(モノクロ成分(輝度成分))の1行3列のマトリクスを、後者の場合には入力3成分(B成分、R成分、B成分)、出力1成分(モノクロ成分(輝度成分))の1行3列のマトリクスを、用いるようにしても良い。あるいは、同一のモノクロマトリクス(入力2成分[(平均R成分、B成分)または(R成分、平均B成分)]、出力1成分(モノクロ成分(輝度成分))の1行2列のマトリクス)を用いることができるように、フレーム毎に平均R成分または平均B成分を算出するようにしても良い。

#### 【0073】

この図6に示す処理を行う場合には、発光可能な色のLEDの何れについても、発光休止期間(つまり、一方の色のLEDが発光しているときには、他方の色のLEDの発光休止期間となる)が設けられることになり、LEDの連続点灯を抑制して加熱を防止し、LEDの長寿命化を図ることができる利点がある。

#### 【0074】

さらに、図7に示す第3の例は、何れかのLEDが故障したときには、CCD13の全ての露光期間に、発光可能なLEDの何れか1色のみを発光させるものとなっている。この図7に示す例は、発光可能な赤色LED23rと青色LED23bとの内の、赤色LED23rをCCD13の全ての露光期間に発光させる例となっている。ここに、赤色LED23rに代えて青色LED23bをCCD13の全ての露光期間に発光させることも可能であるが、発光可能なLEDから何れか1色を選択する場合には、次の点を考慮すると良い。まず、LEDには発光効率が高いものと低いものとがある。従って、発光可能なLEDの内の、発光効率が高い方のLEDを選択すると良い。さらに、モノクロのCCD13には、波長帯域に応じた電荷発生効率がある。従って、発光可能なLEDの内の、電荷発生効率が高い波長帯域の光を発光するLEDを選択すると良い。

#### 【0075】

そして、この第3の例においては、ビデオプロセッサ4は、入力3成分(R成分、R成分、R成分)、出力1成分(モノクロ成分(輝度成分))の1行3列のマトリクス、または、入力1成分(平均R成分)、出力1成分(モノクロ成分(輝度成分))の1行1列のマトリクス(ただしこの場合にはマトリクスというよりも係数乗算処理)を用いるようにすれば良い。

#### 【0076】

この図7に示す処理を行う場合には、ビデオプロセッサ4による画像処理が簡単になる

10

20

30

40

50

利点がある。

【 0 0 7 7 】

また、図 5 ~ 図 7 に示した例に限らず、何れかの L E D が故障したときに、C C D 1 3 の露光期間に、発光可能な全ての L E D を発光させるようにすることも可能である。このときには、図 7 において、C C D 1 3 の全ての露光期間に赤色 L E D 2 3 r が発光するだけでなく、さらに青色 L E D 2 3 b も同時に発光することになる。

【 0 0 7 8 】

この場合には、ビデオプロセッサ 4 は、入力 3 成分 ( ( R + B ) 成分、( R + B ) 成分、( R + B ) 成分 )、出力 1 成分 ( モノクロ成分 ( 輝度成分 ) ) の 1 行 3 列のマトリクス、または、入力 1 成分 ( 平均 ( R + B ) 成分 )、出力 1 成分 ( モノクロ成分 ( 輝度成分 ) ) の 1 行 1 列のマトリクスを用いるようにすれば良い。この場合にも、ビデオプロセッサ 4 による画像処理を簡単にすることができ、また明るい画像を得ることができる利点がある。

10

【 0 0 7 9 】

こうして、本実施形態におけるモノクロ処理も、ビデオプロセッサ 4 が光源装置 3 の発光態様に応じたモノクロ処理を撮像画像に行って、モノクロ表示画像を生成する処理となっている。

【 0 0 8 0 】

このような実施形態 2 によれば、上述した実施形態 1 とほぼ同様の効果を奏するとともに、C C D 1 3 の全ての露光期間に照明光の発光が行われるために、C C D 1 3 の露光期間や読出期間の動作に無駄が生じることがない。そして、全ての露光期間に得られた画像信号に基づいてモノクロ表示画像を作成するために、S / N 比の高い、より明るいモノクロ表示画像を得ることができる利点がある。

20

【 0 0 8 1 】

[ 実施形態 3 ]

図 8 および図 9 は本発明の実施形態 3 を示したものであり、図 8 は内視鏡システムの構成を示す図である。

【 0 0 8 2 】

この実施形態 3 において、上述の実施形態 1 , 2 と同様である部分については同一の符号を付して説明を省略し、主として異なる点についてのみ説明する。

30

【 0 0 8 3 】

本実施形態の内視鏡システム 1 は、上述した実施形態 1 の図 1 に示した構成に、狭帯域光を発光するための狭帯域用発光素子として、狭帯域の V ( バイオレット ) 発光素子であるバイオレット L E D 2 3 v をさらに設けたものとなっている。そして、このバイオレット L E D 2 3 v の追加に伴って、光学系にもさらに 1 つのコリメータレンズ 2 4 と、第 3 のダイクロイックフィルタ 2 5 c とが追加されている。

【 0 0 8 4 】

血液中のヘモグロビンに吸収され易い狭帯域化された波長の光を照射すると、血管が強調して観察されることが知られている。本実施形態において追加したバイオレット L E D 2 3 v は、このような狭帯域光観察 ( Narrow Band Imaging : N B I ( 登録商標 ) ) を行うためのものであり、例えば 3 9 0 ~ 4 4 5 n m の波長の狭帯域光を発光するものとなっている。このバイオレット L E D 2 3 v を用いた狭帯域光観察を行うと、例えば粘膜表層の毛細血管を強調して観察することができる。また、5 3 0 ~ 5 5 0 n m の波長の狭帯域光による観察を行えば、深部の太い血管観察と粘膜表層の毛細血管とのコントラストを強調することができることが知られている。そこで、本実施形態の緑色 L E D 2 3 g は、この狭帯域光を発光するものとなっていて、狭帯域用発光素子を兼ねている。

40

【 0 0 8 5 】

従って、本実施形態の内視鏡システム 1 は、正常動作時の観察モードとして、白色光観察モードと狭帯域光観察モードとを設定することができるようになっている。これに対応して光源装置 3 は、白色光観察モードにおいては白色照明モードの動作を行い、狭帯域光

50

観察モードにおいては狭帯域照明モードの動作を行うように構成されている。

【0086】

白色照明モードにおいては、赤色LED23r、緑色LED23g、青色LED23b、およびバイオレットLED23vの全てが発光する。ここに、面順次照明を行うときには、1フレーム内における第1のフィールドで赤色LED23rが発光し、第2のフィールドで緑色LED23gが発光し、第3のフィールドで青色LED23bおよびバイオレットLED23vが発光する。このような発光態様をとることにより、青色LED23bの発光光量をバイオレットLED23vの発光により補填することができる。

【0087】

また、光源装置3の白色照明モードに対応する白色光観察モードにおいて、ビデオプロセッサ4は、白色光観察画像を生成する画像処理を、カラーマトリクスを用いて行う。ここに、本実施形態の白色光観察モードにおいて用いられるカラーマトリクスは、例えば、入力3成分(R成分、G成分、(B+V)成分)、出力3成分(R成分、G成分、B成分)の3行3列のマトリクスである。

10

【0088】

一方、狭帯域照明モードにおいては、バイオレットLED23vと緑色LED23gとが発光する。

【0089】

光源装置3の狭帯域照明モードに対応する狭帯域光観察モードにおいて、ビデオプロセッサ4は、狭帯域光観察画像を生成する画像処理を、狭帯域光用のカラーマトリクス等を用いて行う。ここに、狭帯域光用のカラーマトリクスは、例えば、入力2成分(G成分、V成分)、出力3成分(R成分、G成分、B成分)の3行2列のマトリクスである。すなわち、CCD13から得られる色成分が2色であっても、狭帯域光観察モードにおいてモニタ5に表示される画像は3色のカラー表示画像となる。

20

【0090】

なお、正常動作時の観察モードとは別に、LEDに故障が生じたときの非常時の観察モードとして、後で図9を参照して説明するような観察モードに内視鏡システム1が設定されるようになっていて、光源装置3もこれに対応して、非常時の照明モードの動作を行う。

【0091】

追加されたコリメータレンズ24は、バイオレットLED23vの出射光の光路上に配設されていて、入射された光を平行光として射出するものである。

30

【0092】

第3のダイクロイックフィルタ25cは、赤色LED23rからの赤色光R、緑色LED23gからの緑色光G、および青色LED23bからの青色光Bを透過し、バイオレットLED23vからの狭帯域光を反射するものである。

【0093】

次に、図9は故障したLEDの色に応じて照明モードの動作を変更する処理を示すフローチャートである。この処理は、主に、光源装置3の制御部21により行われる。

【0094】

この処理を開始すると制御部21は、カラーセンサ27からの入力に基づいて、何れかのLEDに故障が発生したか否かを判定する(ステップS1)。

40

【0095】

ここで、LEDの故障が発生していないと判定された場合には、制御部21は、内視鏡システム1に設定されている正常時の観察モードに対応する照明モードで動作を行うように光源装置3を制御する(ステップS2)。

【0096】

また、ステップS1において何れかのLEDに故障が発生していると判定された場合には、故障したLEDが緑色LED23gであるか否かを判定する(ステップS3)。

【0097】

50

ここで緑色ＬＥＤ２３ｇであると判定された場合には、制御部２１は、ＬＥＤ駆動部２２を介して緑色ＬＥＤ２３ｇへの電力投入を停止させるとともに、非常用のモノクロ観察モードに対応するモノクロ照明モードで動作を行うように光源装置３を制御する（ステップＳ４）。緑色ＬＥＤ２３ｇが故障した場合には、白色照明モードに設定することができないだけでなく、白色照明に近い色再現を実現することも難しく、さらに狭帯域光観察モードに設定することもできないために、モノクロ照明モードに設定するようにしている。このモノクロ照明モードでは、緑色ＬＥＤ２３ｇ以外のＬＥＤを発光させることになる（発光態様については、上述した実施形態１等を参照）。

【００９８】

このとき、故障ＬＥＤ情報（欠落色情報）がビデオプロセッサ４へ通知され、警告表示が行われたり、光源装置３の発光態様に応じたモノクロ表示画像を生成する画像処理に切り替えられたりするのは、上述した実施形態１と同様である。

10

【００９９】

ステップＳ３において緑色ＬＥＤ２３ｇでないと判定された場合には、制御部２１は、故障したＬＥＤが赤色ＬＥＤ２３ｒであるか否かを判定する（ステップＳ５）。

【０１００】

ここで赤色ＬＥＤ２３ｒであると判定された場合には、制御部２１は、ＬＥＤ駆動部２２を介して赤色ＬＥＤ２３ｒへの電力投入を停止させるとともに、狭帯域照明モードで動作を行うように光源装置３を制御する（ステップＳ６）。赤色ＬＥＤ２３ｒが故障した場合には、白色照明モードの動作を行うことはできないが、狭帯域照明モードの動作を行うことは可能である。そこで、故障が検知されるまでは正常な白色照明光による観察を行っていたとしても、ここでは狭帯域照明モードに切り替えるようにしている。

20

【０１０１】

このときにも、故障ＬＥＤ情報（欠落色情報）がビデオプロセッサ４へ通知され、警告表示が行われたり、狭帯域光観察画像を生成する狭帯域照明用の画像処理（上述した狭帯域光用のカラーマトリクス等を用いた画像処理）に切り替えられたりすることになる。

【０１０２】

ステップＳ５において赤色ＬＥＤ２３ｒでないと判定された場合には、制御部２１は、故障したＬＥＤが青色ＬＥＤ２３ｂであるか否かを判定する（ステップＳ７）。

【０１０３】

ここで青色ＬＥＤ２３ｂであると判定された場合には、制御部２１は、ＬＥＤ駆動部２２を介して青色ＬＥＤ２３ｂへの電力投入を停止させるとともに、非常用のＲＧＶ準白色観察モードに対応するＲＧＶ準白色照明モードで動作を行うように光源装置３を制御する（ステップＳ８）。ここに、ＲＧＶ準白色照明モードは、正常時の白色照明モードでは上述したように青色ＬＥＤ２３ｂおよびバイオレットＬＥＤ２３ｖの両方を発光させていたのに代えて、該発光期間にバイオレットＬＥＤ２３ｖのみを発光させるようにした照明モードである。

30

【０１０４】

バイオレットＬＥＤ２３ｖの発光帯域は、紫に近い帯域であるとはいえ、可視広帯域を大きくＲＧＢの３つの帯域に区分したときには、広い意味でのＢ帯域に含まれる。従って、ＲＧＶによる照明を行っても、ＲＧＢによる照明に準じた白色に近い照明を行うことが可能である。ただし、このときには青色ＬＥＤ２３ｂからの光量が欠損するのを補うためにバイオレットＬＥＤ２３ｖの発光量を増大させる必要があり、最大発光量に相当の余裕があるのでない限り、バイオレットＬＥＤ２３ｖを例えば最大発光量で発光させることになる。なお、最大発光量でも光量が不足する場合には、画像の明るさを重視して赤色ＬＥＤ２３ｒおよび緑色ＬＥＤ２３ｇの発光量をそのまま維持するケースと、画像のカラーバランスを重視して赤色ＬＥＤ２３ｒおよび緑色ＬＥＤ２３ｇの発光量をバイオレットＬＥＤ２３ｖの最大発光量に合わせて低下させるケースと、が考えられる。

40

【０１０５】

このときにも、故障ＬＥＤ情報（欠落色情報）がビデオプロセッサ４へ通知され、警告

50

表示が行われたり、できる限り白色光観察画像に近い準白色光観察画像を生成する R G V 準白色照明に応じた画像処理 ( R G V 準白色光用のカラーマトリクス等を用いた画像処理 ) に切り替えられたりすることになる。ここに、R G V 準白色光用のカラーマトリクスは、例えば、入力 3 成分 ( R 成分、G 成分、V 成分 )、出力 3 成分 ( R 成分、G 成分、B 成分 ) の 3 行 3 列のマトリクスである。従って、R G V 準白色照明モードにおいてモニタ 5 に表示される画像は 3 色のカラー表示画像である。

【 0 1 0 6 】

ステップ S 7 において青色 L E D 2 3 b でないと判定された場合には、制御部 2 1 は、故障した L E D がバイオレット L E D 2 3 v であると判定して、L E D 駆動部 2 2 を介してバイオレット L E D 2 3 v への電力投入を停止させるとともに、非常用の R G B 白色観察モードに対応する R G B 白色照明モードで動作を行うように光源装置 3 を制御する ( ステップ S 9 )。ここに、R G B 白色照明モードは、正常時の白色照明モードでは上述したように青色 L E D 2 3 b およびバイオレット L E D 2 3 v の両方を発光させていたのに代えて、該発光期間に青色 L E D 2 3 b のみを発光させるようにした照明モードである。

10

【 0 1 0 7 】

R G B 光が揃えば、原則的には白色照明を行うことが可能である。ただし、このときにはバイオレット L E D 2 3 v からの光量が欠損するのを補うために青色 L E D 2 3 b の発光量を増大させる必要がある。そして、もし最大発光量でも光量が不足する場合には、画像の明るさを重視して赤色 L E D 2 3 r および緑色 L E D 2 3 g の発光量をそのまま維持するケース ( すなわち、純粋な白色照明とはいえず、準白色照明となるケース ) と、画像のカラーバランスを重視して赤色 L E D 2 3 r および緑色 L E D 2 3 g の発光量を青色 L E D 2 3 b の最大発光量に合わせて低下させるケースと、が考えられる。

20

【 0 1 0 8 】

このときには、故障 L E D 情報 ( 欠落色情報 ) がビデオプロセッサ 4 へ通知され、警告表示が行われるとともに、狭帯域光観察モードへの切り替えが禁止され、さらに R G B 白色照明に応じた白色光観察画像を生成する画像処理 ( R G B 白色光用のカラーマトリクス等を用いた画像処理 ) に切り替えられる。ここに、R G B 白色光用のカラーマトリクスは、例えば、入力 3 成分 ( R 成分、G 成分、B 成分 )、出力 3 成分 ( R 成分、G 成分、B 成分 ) の 3 行 3 列のマトリクスである。従って、R G B 白色照明モードにおいてモニタ 5 に表示される画像は 3 色のカラー表示画像である。そして、故障が検知されるまでは狭帯域光観察を行っていたとしても、故障が検知された以降は R G B 白色観察モードに切り替えられることになる。

30

【 0 1 0 9 】

その後、制御部 2 1 は動作を終了するか否かを判定して ( ステップ S 1 0 )、終了しないと判定された場合にはステップ S 1 へ戻って上述したような処理を繰り返して行い、終了すると判定された場合にはこの処理を終える。

【 0 1 1 0 】

このような実施形態 3 によれば、上述した実施形態 1 , 2 とほぼ同様の効果を奏するとともに、故障した L E D の色に応じた適切な非常時の照明を行うことが可能となる。

【 0 1 1 1 】

例えば、バイオレット L E D 2 3 v が故障した場合でも、R G B 白色照明は可能であるために、正常時の白色照明に近い白色照明による観察を行うことができる。

40

【 0 1 1 2 】

また、青色 L E D 2 3 b が故障した場合でも、正常時の白色照明に準じた準白色照明による観察を行うことができる。

【 0 1 1 3 】

さらに、赤色 L E D 2 3 r が故障した場合でも、正常時と同様の狭帯域光観察モードの動作が可能であるために、狭帯域照明での観察を行うことができる。

【 0 1 1 4 】

そして、緑色 L E D 2 3 g が故障した場合にのみ、やむを得ず、モノクロ観察モードに

50

移行すれば足りる。

【 0 1 1 5 】

こうして、本実施形態では狭帯域観察用のバイオレットLED 23vを追加したために、LED故障が生じた非常時に、故障したLEDの色によっては、モノクロ表示画像でなく、正常時のカラー表示画像に近い画像の観察を行うことが可能になる。

【 0 1 1 6 】

なお、上述では主として内視鏡システムについて説明したが、内視鏡システムを上述したように制御する制御方法であっても良いし、コンピュータに内視鏡システムを上述したように制御させるための制御プログラム、該制御プログラムを記録するコンピュータにより読み取り可能な記録媒体、等であっても構わない。

10

【 0 1 1 7 】

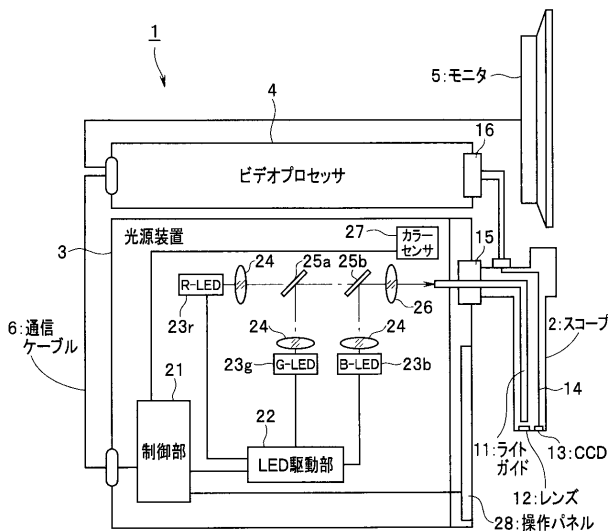
また、本発明は上述した実施形態そのままに限定されるものではなく、実施段階ではその要旨を逸脱しない範囲で構成要素を変形して具体化することができる。また、上記実施形態に開示されている複数の構成要素の適宜な組み合わせにより、種々の発明の態様を形成することができる。例えば、実施形態に示される全構成要素から幾つかの構成要素を削除しても良い。さらに、異なる実施形態にわたる構成要素を適宜組み合わせても良い。このように、発明の主旨を逸脱しない範囲内において種々の変形や応用が可能であることは勿論である。

【 0 1 1 8 】

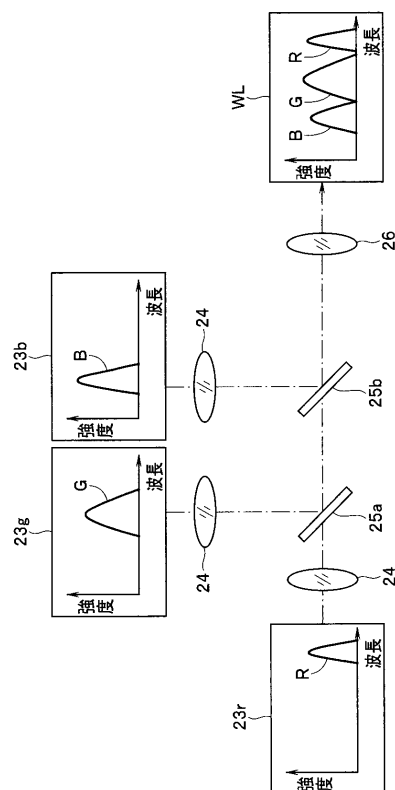
本出願は、2012年3月29日に日本国に出願された特願2012-76989号を優先権主張の基礎として出願するものであり、上記の開示内容は、本願明細書、請求の範囲、図面に引用されたものとする。

20

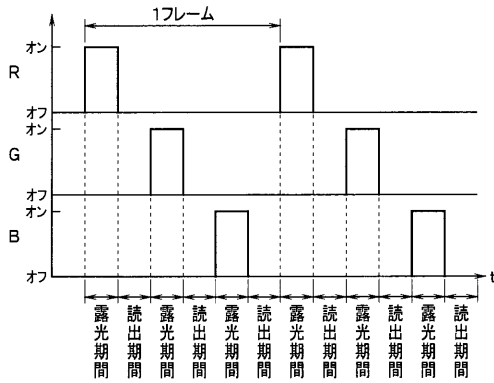
【 図 1 】



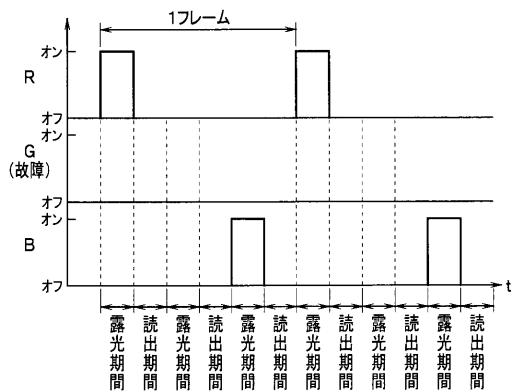
【 図 2 】



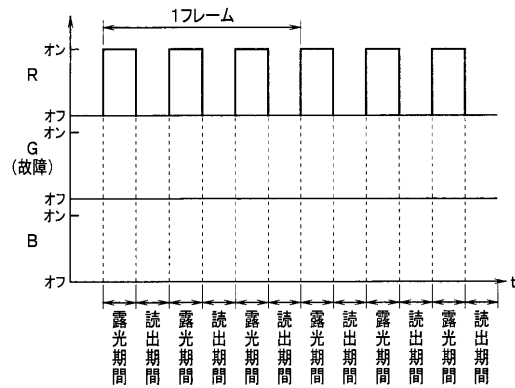
【図 3】



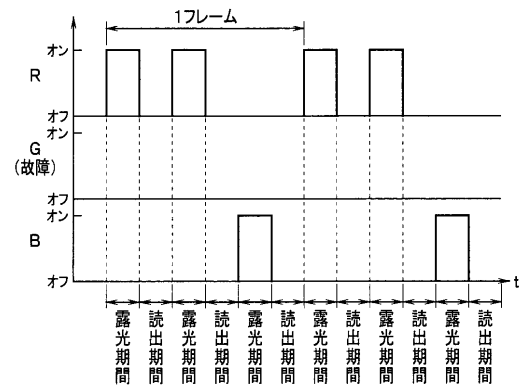
【図 4】



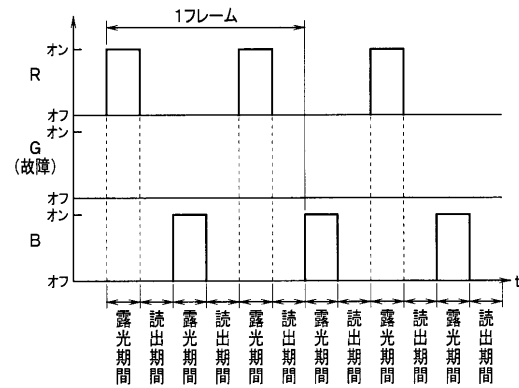
【図 7】



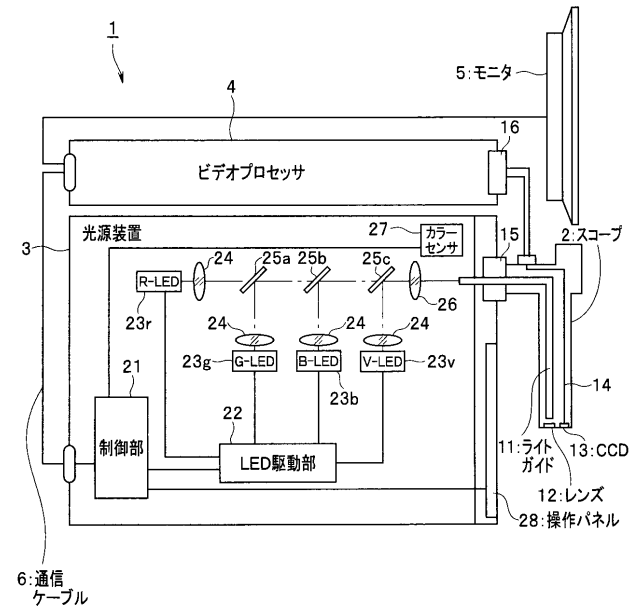
【図 5】



【図 6】

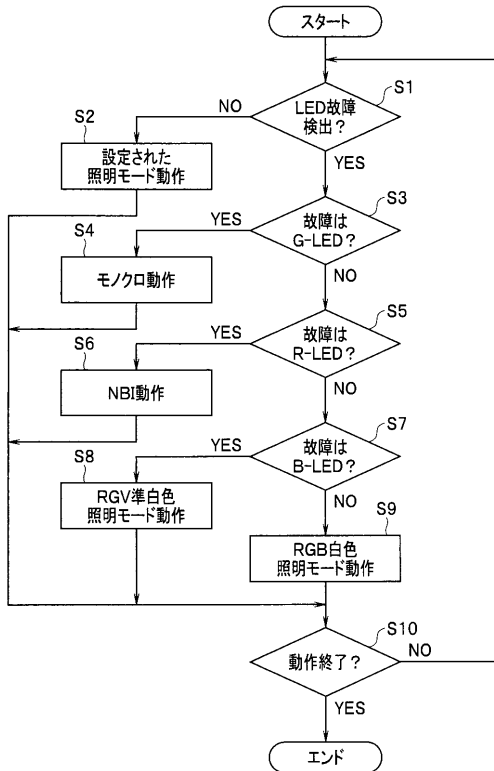


【図 8】

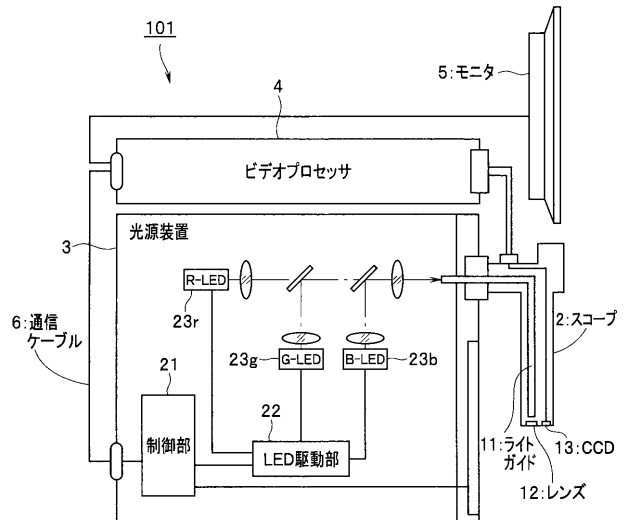




【図 9】



【図 10】



## 【手続補正書】

【提出日】平成25年8月7日(2013.8.7)

## 【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

上記の目的を達成するために、本発明のある態様による内視鏡システムは、複数色の発光素子と、前記複数色の発光素子の中のどの色の発光素子が故障したかを検知する故障検知部と、を有する光源装置と、前記光源装置により発生された照明光を被検体へ照射して該被検体の光学像を取り込む内視鏡と、前記被検体の光学像を撮像する撮像素子と、前記撮像素子により撮像された画像を処理するビデオプロセッサと、前記ビデオプロセッサにより処理された画像を表示するモニターと、を具備し、前記光源装置は、前記故障検知部により前記発光素子の故障が検知されたときは、前記複数の発光素子の内の故障が検知された色以外の色の発光素子により前記照明光を発生し、前記ビデオプロセッサは、前記故障検知部により前記発光素子の故障が検知されたときは、画像処理を、該発光素子の故障が検知されていないときとは異なる、故障が検知された発光素子の色に対応した画像処理に切り替える。

## 【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

複数色の発光素子と、前記複数色の発光素子の中のどの色の発光素子が故障したかを検知する故障検知部と、を有する光源装置と、

前記光源装置により発生された照明光を被検体へ照射して該被検体の光学像を取り込む内視鏡と、

前記被検体の光学像を撮像する撮像素子と、

前記撮像素子により撮像された画像を処理するビデオプロセッサと、

前記ビデオプロセッサにより処理された画像を表示するモニタと、

を具備し、

前記光源装置は、前記故障検知部により前記発光素子の故障が検知されたときは、前記複数の発光素子の内の故障が検知された色以外の色の発光素子により前記照明光を発生し

前記ビデオプロセッサは、前記故障検知部により前記発光素子の故障が検知されたときは、画像処理を、該発光素子の故障が検知されていないときとは異なる、故障が検知された発光素子の色に対応した画像処理に切り替えることを特徴とする内視鏡システム。

## 【請求項 2】

前記複数色の発光素子は、白色光を構成する 3 色の光を発光する発光素子を含み、

前記ビデオプロセッサは、前記故障検知部により前記発光素子の故障が検知されていないときにはカラー処理を撮像画像に行ってカラー表示画像を生成し、該発光素子の故障が検知されたときにはモノクロ処理を撮像画像に行ってモノクロ表示画像を生成することを特徴とする請求項 1 に記載の内視鏡システム。

## 【請求項 3】

前記白色光を構成する 3 色の光を発光する発光素子は、赤色（R）発光素子、緑色（G）発光素子、青色（B）発光素子であり、

前記故障検知部により故障が検知された発光素子が緑色発光素子のみであるときには、前記光源装置が緑色発光素子以外の発光素子を発光させるとともに、前記ビデオプロセッサが前記光源装置の発光態様に応じたモノクロ処理を撮像画像に行ってモノクロ表示画像を生成することを特徴とする請求項 2 に記載の内視鏡システム。

## 【請求項 4】

前記複数色の発光素子は、さらに、狭帯域光を発光する狭帯域用発光素子を含み、

前記故障検知部により故障が検知された発光素子が前記狭帯域用発光素子のみであるときには、照明モードを R G B 白色照明モードに設定して、前記光源装置が R G B 白色照明を行うとともに、前記ビデオプロセッサが R G B 白色照明に応じたカラー処理を撮像画像に行ってカラー表示画像を生成することを特徴とする請求項 3 に記載の内視鏡システム。

## 【請求項 5】

前記狭帯域用発光素子は、狭帯域のバイオレット（V）発光素子を含み、

前記故障検知部により故障が検知された発光素子が前記青色発光素子のみであるときには、照明モードを R G V 準白色照明モードに設定して、前記光源装置が前記青色発光素子を発光させる期間に前記バイオレット発光素子のみを発光させることにより R G V 準白色照明を行うとともに、前記ビデオプロセッサが R G V 準白色照明に応じたカラー処理を撮像画像に行ってカラー表示画像を生成することを特徴とする請求項 4 に記載の内視鏡システム。

## 【請求項 6】

前記緑色発光素子は前記狭帯域用発光素子を兼ねており、

前記故障検知部により故障が検知された発光素子が前記赤色発光素子のみであるときには、照明モードを狭帯域照明モードに設定して、前記光源装置が前記バイオレット発光素子および前記緑色発光素子を発光させることにより狭帯域照明を行うとともに、前記ビデオプロセッサが狭帯域照明用の画像処理を撮像画像に行って狭帯域画像を生成することを特徴とする請求項 5 に記載の内視鏡システム。

## 【請求項 7】

前記光源装置は、前記発光素子の故障が検知されていないときには前記白色光を構成する３色の光を発光する発光素子により面順次照明を行うものであり、何れかの色の該発光素子の故障が検知されたときには、前記撮像素子の全ての露光期間に、故障が検知されていない発光素子の何れか１色以上を発光させ、

前記ビデオプロセッサは、前記故障検知部により前記発光素子の故障が検知されたときには、前記光源装置の発光態様に応じたモノクロ処理を撮像画像に行ってモノクロ表示画像を生成することを特徴とする請求項２に記載の内視鏡システム。

【手続補正書】

【提出日】平成25年11月25日(2013.11.25)

【手続補正１】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１６

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１６】

上記の目的を達成するために、本発明の一態様による内視鏡システムは、第１の色の光を発生する第１の発光素子と、前記第１の色とは異なる第２の色の光を発生する第２の発光素子と、前記第１の発光素子と第２の発光素子の中のどの色の発光素子が故障したかを検知する故障検知部と、前記故障検知部により前記第１または第２の発光素子の故障が検知されたときは、前記第１、第２の発光素子の中の故障が検知された発光素子以外の発光素子により照明光を発生するように前記第１及び第２の発光素子を制御する光源制御部と、を具備する光源装置と、前記光源装置により発生された照明光を被検体へ照射して該被検体の光学像を取り込む内視鏡と、前記被検体の光学像を撮像する撮像素子と、前記撮像素子により撮像された画像を処理するビデオプロセッサと、前記故障検知部による検知結果に基づいて、前記ビデオプロセッサにおける画像処理を、前記第１、第２の発光素子に故障が発生していない状態に対応したカラー画像処理と、前記第１の発光素子の故障に対応した第１の画像処理と、前記第２の発光素子の故障に対応した第２の画像処理との中から選択する選択部と、前記選択部により選択された画像処理が施された前記画像を表示するモニタと、を具備する。

【手続補正２】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項１】

第１の色の光を発生する第１の発光素子と、  
前記第１の色とは異なる第２の色の光を発生する第２の発光素子と、  
前記第１の発光素子と第２の発光素子の中のどの色の発光素子が故障したかを検知する故障検知部と、

前記故障検知部により前記第１または第２の発光素子の故障が検知されたときは、前記第１、第２の発光素子の中の故障が検知された発光素子以外の発光素子により照明光を発生するように前記第１及び第２の発光素子を制御する光源制御部と、

を具備する光源装置と、

前記光源装置により発生された照明光を被検体へ照射して該被検体の光学像を取り込む内視鏡と、

前記被検体の光学像を撮像する撮像素子と、

前記撮像素子により撮像された画像を処理するビデオプロセッサと、

前記故障検知部による検知結果に基づいて、前記ビデオプロセッサにおける画像処理を、前記第１、第２の発光素子に故障が発生していない状態に対応したカラー画像処理と、

前記第 1 の発光素子の故障に対応した第 1 の画像処理と、前記第 2 の発光素子の故障に対応した第 2 の画像処理との中から選択する選択部と、

前記選択部により選択された画像処理が施された前記画像を表示するモニタと、  
を具備することを特徴とする内視鏡システム。

【請求項 2】

前記第 1 及び第 2 の光と異なる第 3 の色の光を発生する第 3 の発光素子を更に備え、

前記故障検知部は、更に前記第 3 の発光素子の故障を検知するものであり、

前記光源制御部は、前記第 1 ないし第 3 の発光素子のうち、故障が検知された発光素子以外の発光素子により照明光を発生するように前記第 1 ないし第 3 の発光素子を制御するものであり、

前記選択部は、前記故障検知部による検知結果に基づいて、前記カラー画像処理と、前記第 1 の画像処理と、前記第 2 の画像処理と、前記第 3 の発光素子の故障に対応した第 3 の画像処理との中から前記ビデオプロセッサによる画像処理を選択するものである

ことを特徴とする請求項 1 に記載の内視鏡システム。

【請求項 3】

前記第 1 ないし第 3 の発光素子は、白色光を構成する 3 色の光を発光するものであることを特徴とする請求項 2 に記載の内視鏡システム。

【請求項 4】

前記第 1 の発光素子は前記第 1 の色の光として赤色（R）の光を発生する赤色発光素子であり、

前記第 2 の発光素子は前記第 2 の色の光として緑色（G）の光を発生する緑色発光素子であり、

前記第 3 の発光素子は前記第 3 の色の光として青色（B）の光を発生する青色発光素子であり、

前記故障検知部により故障が検知された発光素子が緑色発光素子のみであるときには、前記光源装置が緑色発光素子以外の発光素子を発光させるとともに、前記ビデオプロセッサが前記光源装置の発光態様に応じたモノクロ処理を撮像画像に行ってモノクロ表示画像を生成することを特徴とする請求項 3 に記載の内視鏡システム。

【請求項 5】

さらに、狭帯域光を発光する狭帯域用発光素子を具備し、

前記故障検知部により故障が検知された発光素子が前記狭帯域用発光素子のみであるときには、照明モードを R G B 白色照明モードに設定して、前記光源装置が R G B 白色照明を行うとともに、前記選択部が R G B 白色照明に応じた画像処理を選択し、前記ビデオプロセッサが該選択された画像処理を撮像画像に行ってカラー表示画像を生成することを特徴とする請求項 4 に記載の内視鏡システム。

【請求項 6】

前記狭帯域用発光素子は、狭帯域のバイオレット（V）発光素子を含み、

前記故障検知部により故障が検知された発光素子が前記青色発光素子のみであるときには、照明モードを R G V 準白色照明モードに設定して、前記光源装置が前記青色発光素子を発光させる期間に前記バイオレット発光素子のみを発光させることにより R G V 準白色照明を行うとともに、前記選択部が R G V 準白色照明に応じた画像処理を選択し、前記ビデオプロセッサが該選択された画像処理を撮像画像に行ってカラー表示画像を生成することを特徴とする請求項 5 に記載の内視鏡システム。

【請求項 7】

前記緑色発光素子は前記狭帯域用発光素子を兼ねており、

前記故障検知部により故障が検知された発光素子が前記赤色発光素子のみであるときには、照明モードを狭帯域照明モードに設定して、前記光源装置が前記バイオレット発光素子および前記緑色発光素子を発光させることにより狭帯域照明を行うとともに、前記ビデオプロセッサが狭帯域照明用の画像処理を撮像画像に行って狭帯域画像を生成することを特徴とする請求項 6 に記載の内視鏡システム。

## 【請求項 8】

前記光源装置は、前記発光素子の故障が検知されていないときには前記白色光を構成する 3 色の光を発光する発光素子により面順次照明を行うものであり、何れかの色の該発光素子の故障が検知されたときには、前記撮像素子の全ての露光期間に、故障が検知されていない発光素子の何れか 1 色以上を発光させ、前記ビデオプロセッサは、前記故障検知部により前記発光素子の故障が検知されたときには、前記光源装置の発光態様に応じたモノクロ処理を撮像画像に行ってモノクロ表示画像を生成することを特徴とする請求項 3 に記載の内視鏡システム。

## 【国際調査報告】

INTERNATIONAL SEARCH REPORT		International application No. PCT/JP2013/054954
<b>A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER</b> A61B1/06(2006.01)i, A61B1/00(2006.01)i, A61B1/04(2006.01)i, G02B23/24 (2006.01)i, H04N7/18(2006.01)i  According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC		
<b>B. FIELDS SEARCHED</b> Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) A61B1/06, A61B1/00, A61B1/04, G02B23/24, H04N7/18  Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2013 Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2013 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2013  Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)		
<b>C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT</b>		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y A	JP 2006-87764 A (Kyocera Corp.), 06 April 2006 (06.04.2006), paragraphs [0008], [0025] to [0038], [0046] to [0050]; fig. 3 (Family: none)	1-4, 7 5-6
Y	JP 2006-61567 A (Pentax Corp.), 09 March 2006 (09.03.2006), paragraphs [0004], [0014], [0029] to [0035] (Family: none)	1-4, 7
Y	JP 2007-14422 A (Olympus Medical Systems Corp.), 25 January 2007 (25.01.2007), paragraphs [0038] to [0039], [0056] to [0057] & US 2009/0118578 A1 & EP 1889563 A1	4
<input checked="" type="checkbox"/> Further documents are listed in the continuation of Box C. <input type="checkbox"/> See patent family annex.		
* Special categories of cited documents: "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance "E" earlier application or patent but published on or after the international filing date "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed "T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention "X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art "&" document member of the same patent family		
Date of the actual completion of the international search 22 March, 2013 (22.03.13)		Date of mailing of the international search report 02 April, 2013 (02.04.13)
Name and mailing address of the ISA/ Japanese Patent Office		Authorized officer
Facsimile No.		Telephone No.

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2013/054954

## C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
P, X	JP 2012-217484 A (Fujifilm Corp.), 12 November 2012 (12.11.2012), paragraphs [0034] to [0047], [0137] (Family: none)	1-2
A	JP 2006-136453 A (Fujinon Corp.), 01 June 2006 (01.06.2006), entire text; all drawings (Family: none)	1-7
A	JP 2008-305710 A (Olympus Corp.), 18 December 2008 (18.12.2008), entire text; all drawings & US 2010/0194290 A1 & EP 2157356 A1	1-7

国際調査報告		国際出願番号 PCT/J P 2 0 1 3 / 0 5 4 9 5 4									
<b>A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC））</b> Int.Cl. A61B1/06(2006.01)i, A61B1/00(2006.01)i, A61B1/04(2006.01)i, G02B23/24(2006.01)i, H04N7/18(2006.01)i											
<b>B. 調査を行った分野</b> 調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC）） Int.Cl. A61B1/06, A61B1/00, A61B1/04, G02B23/24, H04N7/18											
最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの <table border="0"> <tr> <td>日本国実用新案公報</td> <td>1922-1996年</td> </tr> <tr> <td>日本国公開実用新案公報</td> <td>1971-2013年</td> </tr> <tr> <td>日本国実用新案登録公報</td> <td>1996-2013年</td> </tr> <tr> <td>日本国登録実用新案公報</td> <td>1994-2013年</td> </tr> </table>				日本国実用新案公報	1922-1996年	日本国公開実用新案公報	1971-2013年	日本国実用新案登録公報	1996-2013年	日本国登録実用新案公報	1994-2013年
日本国実用新案公報	1922-1996年										
日本国公開実用新案公報	1971-2013年										
日本国実用新案登録公報	1996-2013年										
日本国登録実用新案公報	1994-2013年										
国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）											
<b>C. 関連すると認められる文献</b>											
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号									
Y A	JP 2006-87764 A（京セラ株式会社）2006.04.06, 【0008】、【0025】－【0038】、【0046】－【0050】及び図3（ファミリーなし）	1-4, 7 5-6									
Y	JP 2006-61567 A（ペンタックス株式会社）2006.03.09, 【0004】、【0014】、【0029】－【0035】（ファミリーなし）	1-4, 7									
<input checked="" type="checkbox"/> C欄の続きにも文献が列挙されている。 <input type="checkbox"/> パテントファミリーに関する別紙を参照。											
<table border="0"> <tr> <td>           * 引用文献のカテゴリー            「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの            「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの            「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）            「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献            「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願         </td> <td>           の日の後に公表された文献            「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの            「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの            「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの            「&amp;」同一パテントファミリー文献         </td> </tr> </table>				* 引用文献のカテゴリー 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す） 「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願	の日の後に公表された文献 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの 「&」同一パテントファミリー文献						
* 引用文献のカテゴリー 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す） 「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願	の日の後に公表された文献 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの 「&」同一パテントファミリー文献										
国際調査を完了した日 22.03.2013		国際調査報告の発送日 02.04.2013									
国際調査機関の名称及びあて先 日本国特許庁（ISA/J P） 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号		特許庁審査官（権限のある職員） 大▲瀬▼ 裕久 電話番号 03-3581-1101 内線 3292	2Q 3808								



国際調査報告		国際出願番号 PCT/J P 2 0 1 3 / 0 5 4 9 5 4
C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y	JP 2007-14422 A (オリンパスメディカルシステムズ株式会社) 2007.01.25, 【0038】－【0039】、【0056】－【0057】 & US 2009/0118578 A1 & EP 1889563 A1	4
P, X	JP 2012-217484 A (富士フイルム株式会社) 2012.11.12, 【0034】－【0047】、【0137】 (ファミリーなし)	1-2
A	JP 2006-136453 A (フジノン株式会社) 2006.06.01, 全文、全図 (ファミリーなし)	1-7
A	JP 2008-305710 A (オリンパス株式会社) 2008.12.18, 全文、全図 & US 2010/0194290 A1 & EP 2157356 A1	1-7

## フロントページの続き

(51)Int.Cl. F I テーマコード(参考)  
**H 0 4 N 7/18 (2006.01) H 0 4 N 7/18 M**

(81)指定国 AP(BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), EA(AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), EP(AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OA(BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG), AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC

(72)発明者 高橋 智也  
 東京都渋谷区幡ヶ谷 2 丁目 4 3 番 2 号 オリナスメディカルシステムズ株式会社内  
 (72)発明者 戸田 真人  
 東京都渋谷区幡ヶ谷 2 丁目 4 3 番 2 号 オリナスメディカルシステムズ株式会社内  
 (72)発明者 代田 雄高  
 東京都渋谷区幡ヶ谷 2 丁目 4 3 番 2 号 オリナスメディカルシステムズ株式会社内  
 (72)発明者 秋山 大輔  
 東京都渋谷区幡ヶ谷 2 丁目 4 3 番 2 号 オリナス株式会社内  
 (72)発明者 大森 浩司  
 東京都渋谷区幡ヶ谷 2 丁目 4 3 番 2 号 オリナスメディカルシステムズ株式会社内

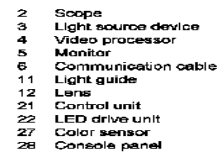
F ターム(参考) 2H040 CA04 CA06 GA02 GA05 GA06 GA11  
 4C161 CC06 GG01 HH51 JJ11 JJ17 MM03 NN01 QQ07 RR02 RR22  
 SS21 WW18 XX10  
 5C054 HA12

(注) この公表は、国際事務局(WIPO)により国際公開された公報を基に作成したものである。なおこの公表に係る日本語特許出願(日本語実用新案登録出願)の国際公開の効果は、特許法第184条の10第1項(実用新案法第48条の13第2項)により生ずるものであり、本掲載とは関係ありません。

专利名称(译)	内窥镜系统		
公开(公告)号	<a href="#">JPWO2013146014A1</a>	公开(公告)日	2015-12-10
申请号	JP2013535618	申请日	2013-02-26
[标]申请(专利权)人(译)	奥林巴斯医疗株式会社		
申请(专利权)人(译)	オリンパスメディカルシステムズ株式会社		
[标]发明人	正木隆浩 矢部雄亮 高橋智也 戸田真人 代田雄高 秋山大輔 大森浩司		
发明人	正木 隆浩 矢部 雄亮 高橋 智也 戸田 真人 代田 雄高 秋山 大輔 大森 浩司		
IPC分类号	A61B1/06 A61B1/04 A61B1/00 G02B23/24 G02B23/26 H04N7/18		
CPC分类号	A61B1/0638 A61B1/00006 A61B1/00009 A61B1/00055 A61B1/00057 G02B23/24 G02B23/2484 H04N7/18		
FI分类号	A61B1/06.B A61B1/04.370 A61B1/00.300.D G02B23/24.B G02B23/26.B H04N7/18.M		
F-TERM分类号	2H040/CA04 2H040/CA06 2H040/GA02 2H040/GA05 2H040/GA06 2H040/GA11 4C161/CC06 4C161/GG01 4C161/HH51 4C161/JJ11 4C161/JJ17 4C161/MM03 4C161/NN01 4C161/QQ07 4C161/RR02 4C161/RR22 4C161/SS21 4C161/WW18 4C161/XX10 5C054/HA12		
代理人(译)	伊藤 进 长谷川 靖 ShinoUra修		
优先权	2012076989 2012-03-29 JP		
其他公开文献	JP5467181B1		
外部链接	<a href="#">Espacenet</a>		

#### 摘要(译)

本发明提供一种内窥镜系统，其包括：光源装置（3），其包括多种颜色的LED（23r，23g，23b）；以及颜色传感器（27），其检测LED的故障。示波器（2），其将由光源装置（3）产生的照明光照射到被检体上，并获取该被检体的光学像。CCD（13），其拾取对象的光学图像。视频处理器（4），处理由CCD（13）拾取的图像；监视器（5），其显示由视频处理器（4）处理的图像，其中，如果颜色传感器（27）检测到任何LED的故障，则视频处理器（4）将图像处理切换为图像处理 根据仅未检测到故障的LED的发光，图像处理与当未检测到LED故障时的图像处理不同。



- 2 Scope  
3 Light source device  
4 Video processor  
5 Monitor  
6 Communication cable  
11 Light guide  
12 Lens  
21 Control unit  
22 LED drive unit  
27 Color sensor  
28 Console panel